

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・心の教育において、校内研究で道徳科の研究を行うことを通して、95%の教員が指導方法の改善ができたと回答し、91%の生徒が道徳の授業は生活の役に立っていると答えていることから、道徳科の学びが成果として表れたものと考えられる。
------------------	--

2 学校教育目標	<p><b>心豊かにたくましく生きる生徒の育成</b></p> <p>～自ら考え、主体的に判断し行動する中学校生活を通して～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>① 個々の基礎学力向上のための効果的な指導方法改善（特別支援教育課程、端末の活用）</p> <p>② 生徒の学びを止めない「安心・安全」を最優先した教育環境づくり（感染対策・支援、不登校対策・支援）</p> <p>③ 道徳教育の充実による豊かな心と社会性の育成（道徳科を要とした有機的な連携）</p> <p>④ 開発的な生徒指導の展開〔「生徒指導の3機能（出番・役割・承認）」を基にして〕（仕組む・育てる生徒会）</p> <p>⑤ 全教職員によるフォローアップと創意的で効率的な学校経営〔「働き方改革」へ〕（持続可能、断捨離）</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○不登校生徒や新型コロナウイルス感染症関連の臨時休業等対応として家庭学習や補充学習の充実を図る。	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○生徒や保護者対象の学校評価(外部アンケート)で、「家庭学習の習慣が身に付いている」の項目で、生徒、保護者ともに80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・予習を意識した家庭学習の課題づくりの工夫研究。 ・生徒会図書委員会との連携による図書館利用の充実。 ・タブレットドリルの活用	B	・教職員間でマイプランを共有するまでには至っていない。 ・授業であての提示や振り返りを行って、分かりやすい授業を目指している教員が90.9%と意欲的に授業づくりを行っている。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・学校行事等と連携した道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施	A	・「道徳の授業は生活をよくするために役立っているか。」のアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒は91%である。 ・学校行事等と連携した道徳科の授業や人権集会が実施できている。また、道徳に関するアンケートは後期に実施予定である。	A	・「道徳の授業は生活をよくするために役立っているか。」に肯定的な回答をした生徒は85.1%と目標達成している。 ・「人権同和教育を計画的に実践している」に肯定的に回答した教員は100%である。 ・道徳に関するアンケートにおいて、肯定的に回答した教員は82.4%である。	A	・生徒の心を育てるのに道徳が大切だと思う。今後も継続してほしい。
●健康・体づくり	安全に関する資質・能力の育成 ○新型コロナ感染予防に向けた共通実践	○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○本校生徒及び職員から感染者、クラスターを発生させない。	・生活事故や交通事故における現場における事故検証を行い、職員へ注意喚起する。 ・交通安全教室や防犯教室、避難訓練の実施、各施設の安全管理点検及び補修。 ・学校内外の危険箇所マップの活用、緊急メールによる情報の速やかな発信。 ・立ち番指導による生徒の登下校時の安全確保を行う。	A	・生徒の交通事故が数件発生した。 ・交通安全教室や防犯教室、避難訓練は実施できている。また、安全点検も定期的に実施できている。 ・緊急メールによる安全に関する情報を数回発信できた。 ・月初めの立ち番指導で生徒の安全が確保できていることに加え、毎日の校門付近の立ち番指導にも取り組んでいる。	A	・生徒の交通事故が数件発生した。 ・後期の避難訓練も実施できた。また、安全点検も定期的に確実に実施でき、危険箇所については随時補修している。 ・月初めの立ち番指導で生徒の安全が確保できていることに加え、登下校時には校門付近の立ち番指導も行った。	A	・大きな事故がなかったのはよかった。 ・4月からマスク着用の義務がなくなるので、子どもたちにのびのびと生活してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の確認 ・退勤時刻時の呼びかけ	A	・月別の全職員の時間外在校時間が45時間を2月下回ることができた。また、60時間を超える月は1月のみであった。 ・具体的な取組のほとんどを実施している。	A	・後期は校内での新型コロナウイルス感染は確認されなかった。 ・感染防止について、適宜指導を行い、生徒の手洗いや手指消毒、マスク着用が習慣となっている。 ・月別の全職員の平均時間外在校時間が45時間を5月下回ることができた。また、60時間を超える月は1月のみである。 ・時間内に効率よく業務を行うといった職員の意識も高まっていると思われる。	A	・先生方が健康であることが子どもたちに元気に指導できることにつながる。体調管理に気を付けてほしい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有 ・特別支援員の担当を決め、様々な支援方法の模索、より多くの情報収集・共有	B	・特別支援に関する専門性が向上したと回答した教員は34.8%と低い。 ・特別支援に関する研修を3回実施したが、個別のケース会議が必要だと思われる。
○生徒会活動の充実	○生徒会の自治力の育成	○出番・役割・承認(価値付け)を具現化する。	・専門委員会による定例活動の徹底 ・毎月の中央委員会、専門委員会、生徒集会の実施 ・ボランティア活動の実施 ・実行委員会の設置(体育大会、文化発表会)	A	・専門委員会、中央委員会、生徒集会を定期的に実施できている。特に生徒集会では各委員会からの報告のみではなく、本部役員の話やレクリエーションを取り入れるなど、自主的な活動が見られた。 ・美化委員会を中心としたボランティア活動にも取り組むことができた。 ・体育大会や文化発表会では実行委員が中心となって運営することができた。	A	・専門委員会、中央委員会、生徒集会を定期的に実施できている。特に生徒集会では各委員会からの報告のみではなく、本部役員の話やレクリエーションを取り入れるなど、自主的な活動が見られた。	A	・生徒会が自主的な活動を楽しんでいることはよい。ご指導を継続してお願いします。

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育</p> <p>・学力の向上については、分かりやすい授業づくりができている。県調査の分析から基礎基本の知識・技能の定着を目指した授業を展開していきたい。 ・心の教育については、「道徳科」と学校行事等を関連付けて行うことができた。今後も継続していきたい。 ・健康・体づくりについては、校内において新型コロナウイルス感染症が広がる時期もあった。今後も引き続き感染防止に努めていきたい。 ・特別支援教育については、まだ十分とは言えない。今後も引き続き、外部講師を招いた研修を行うなど、個々のスキルを高めていきたい。 ・生徒会活動の充実については、出番や役割を設定し承認することができ、自主的な生徒会活動につながった。今後も取り組みを継続していきたい。</p>
--------------------	---